

【教科】 国語科	【日時】 2月 6日（金）5校時	【生徒】 2年 4組 40名	【授業者】 木山 琴音
江戸川区立小松川中学校 研究発表公開授業		「誰ひとり取り残さない、生徒一人一人の学力向上を図る教育実践」	

【単元名】 聴きひたる「月夜の浜辺」 (全1時間)		学習過程	〇主な学習活動・予想される生徒の気付きや反応	☆指導上の工夫
【単元目標】 言葉の響きやリズムに注目して詩を味わい、そこから作者が描いた情景や心情をとらえる力を育むとともに、自分の感じたことを他者に伝える力を養う。また、互いの多様な感じ方を尊重し、学び合いながら自分の考えを深める態度を養う。		導入 7分	〇「夜の浜辺」をイメージした画像を見せ、感じたことをワークシートに記入する。 ・悲しい感じ、寂しそう ・きれいだと思う→グループで共有 〇「月夜の浜辺」範読する。 〇本時のめあての確認をする。	☆詩を読む前に、情景を具体的に示すことで、より生徒が詩の内容を想像し、味わうことができるよう促す。
		本時のめあて：響きやリズムを味わい、情景・心情を捉えて感じたことを伝え合おう		
次	学習内容（時数） ①本時	展開 30分	〇「月夜の浜辺」を朗読する。 ①全体で ②ペアもしくは3人で ③グループの人たちと相互評価（ワークシートに記入） 〇詩に描かれている情景について、時間・天気・場所をまとめて整理する 〇話者の心情を考える（個人3分、グループ3分、全体共有5分）	☆めあてを確認し、響きやリズムに注目しながら朗読することを意識させる。（机間指導） ☆生徒が詩の情景を正確に理解し、その後の話し合い活動で共通の認識をもって取り組めるようにする。
1 ①	朗読・情景・心情を捉え、自分の考えを伝え合う		話し合い：なぜ話者はボタンを捨てられないのだろうか？ ・大事なものだ気が付いたから。 ・誰かの大切なものかもしれないから。 ・思い出になると思ったから。	☆「それを捨てて役立てようと思ったわけでもないが」という部分に注目させたうえで、なぜ役立たないものを捨てられないのかという視点で考えられるようにする。
		まとめ 13分	〇詩を味わい、感じたこと、考えたことをまとめ、グループで伝え合う。（個人3分、グループ3分、全体共有5分） 〇ふりかえり、まとめ	☆「共感」することを意識させるよう黒板に「共感しよう」カードを掲示した上で、グループ活動をする。話し合いの中で自分の考えをさらに深めることができるよう、お互いに質問を行う。 ☆作者の中原中也について紹介し、今後の読書へとつなげる。

【本時の目標】（ 1 / 1 時）

響きやリズムに注目しながら朗読し、作者の情景・心情を捉えて感じたことを伝え合うことができる。

【本時の評価】

・響きやリズムを味わい、朗読することができている（観察・相互評価）

・詩から読み取った作者の描く情景や心情について自分の言葉で説明している（ワークシート）

・感じたことを自分の言葉で説明し、話し合う中で考えを深めようとしている（観察・ワークシート）